

あうち

創刊号

2002.10



テーマ 「しつけ」

栃木県幼児教育センター

幼児期は人間形成の基礎を培う上で極めて大切な時期です。いたずらに心身の早熟を喜ぶのではなく、この時期にしかできない、幼児期ならではの豊かな体験をすることが、子どもたちの心身の調和のとれた成長につながっていきます。幼児期の豊かな体験は、それ以降の成長の根っここの部分になります。

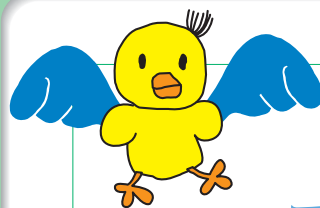
「おうち」 について



幼児教育センターでは、お子さんが成長するために大切な根っここの部分をしっかりしたものにするために、この「おうち」によって、情報を提供したり、誌上で読者の皆様の意見を交流したりしていきます。

毎回1テーマを扱っていきますが、その際はアンケートに御協力ください。

家庭教育を応援します
園と家庭をつなぎます
アンケートをもとに考えます
一回一テーマです



ママのおなか

ママのお腹に

あかちゃんいるって……



パパと一緒に顔近づけて

「あ、か、ちゃん」って

呼んでみたけど

お返事しないね

もし、

ほんとに赤ちゃん出てきたら

いっぱい、いっぱい あそぼうね

だって おねえちゃんだもん

たのしみだね ババ ママ

(保育園児のつぶやき)

ご あ い さ つ



栃木県教育委員会教育長
岩崎 修

21世紀が私たちにとって希望と期待に満ちた新世紀として幕を明けたのは、昨年のごとです。明るく夢のある世紀を切り開いてゆくのは今の子どもたちです。

社会全体で子どもを育てるとよく言われますが、幼児期の子どもが育っていく基盤はやはり家庭です。幼児教育センター設立に伴い、幼児をもつ保護者の方々への支援として家庭教育広報誌の発行を行う事が可能になりました。この家庭教育広報誌「おうち」は、子どもについての情報を提供したり、みなさまの意識の交流を図ったりすることで、親としての底力を付けていただくことをねらっております。

子どもへの理解を深めてほしい、親として力を付けてほしい、そのような願いを込めてお届けします。

CONTENTS

目次

未来を支える子育て応援誌

③ ページ しつけについて悩んでいること (アンケート結果)

感情的に怒ってしまう、反抗期の子どもへの接し方など、いろいろな疑問が寄せられました。

⑤ ページ 座談会 しつけってむずかしい

幼稚園、保育所にお子さんを通わず4人の保護者と、幼児教育センター顧問 井上初代先生に対談していただきました。

⑨ ページ トピック

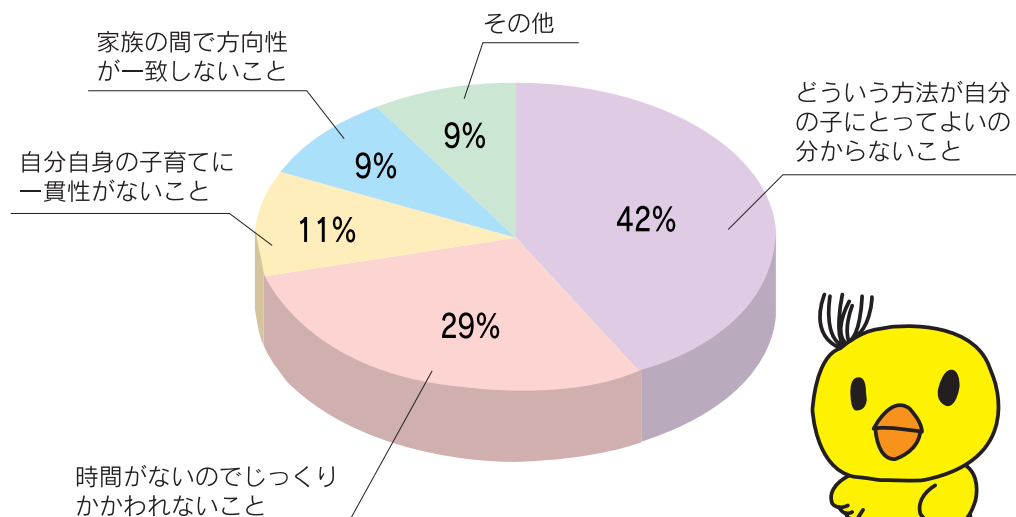
アンケートの回答で多かった疑問に迫ります。
・反抗期のしつけ ・のびのびと放任の違いとは

しつけについて 悩んでいること

家庭でのしつけで、むずかしいと思っていることについてのアンケートの結果です。

回答を寄せていただいたのは21,586人の3歳から5歳の幼児を幼稚園、保育所に通わせている保護者の方です。

しつけに悩んでいること



幼稚園・保育所を通じて寄せられた自由意見で、多かったものは次のようです。

- その日の感情で叱ってしまい、しつけに一貫性がない。
- 仕事をしていることや下の子が小さいなどの理由で子どもとゆっくりかかわれない、気持ちにゆとりがない。
- 兄弟の性格の違いにうまく対応できていない、下の子を優先させてしまいがち。
- のびのびと育てたいが、いけないことは厳しく対応しなければならず、そのかねあいがむずかしい。
- 父親が忙しく、子どもと十分かかわれていない。
- 甘やかしと受容の判断がむずかしい。
- 気がつくと怒ってしまっている、いつまでも怒っている、怒りすぎている。
- 子育てによる親自身のいらいらの解消ができない。
- 親自身が身をもって規範を示せない、基本的なことをしつけられない。
- 慌ただしさにかまけて禁止することが多い。
- 生活のリズムをうまくしつけられない、布団に早く入っても、遅くまで起きている。
- 一人親家族なので、しつけについて迷うことが多い。
- 年齢によってどの程度のことをしつけの範囲としたらよいのか分からない。
- マスコミからの情報がたくさん入りすぎて、自分で考えることをしなくなるような気がする。

- 習い事はいつ頃から始めればよいのか分からない。
- 他の家族ではどのくらい習い事をさせているのか知りたい。

- 今の教育が画一的すぎる。
- 世の中の常識の変化が早すぎ、今、何をしつけたらよいのか分からない。
- 地域に友達がいない。
- 子どもを泣かせていると虐待と思われるのではと心配してしまう。
- 反抗期のしつけについて教えてほしい。
- 発達が遅れているのではないかと心配。

- 夫婦でよく子育てについて話し合うようにしている。
- なるべく地域の方々と接し、親自身が方法を見いだしたいと思っている。
- 子育てに完璧はないと思うので、楽しく子育てに取り組んでいきたい。
- なるべく子どもの話を聞いてあげるようにしている。

自由意見



このように、多岐にわたるご意見が寄せられましたが、多くの方は共通の疑問点をもたれていたようです。みなさんから寄せられた意見の中で、多く共通した話題について、子育て最中の県民の方に参加していただいた座談会で取り上げました。

座談会

しつけてむずかしい？

アンケートの中で多く寄せられた悩みについて、今まさに子育てをしている保護者と、幼児教育の経験豊かな井上初代センター顧問に座談会をしていただきました。

一人一人違うからおもしろい

兄弟の性格の違い

清水：今現在、中学校に入学したばかりの長女が、中学校に入っただけで環境の変化からか、朝なかなか起きてこないんですね。次女は目覚ましをセットして自分で起きてくる。比べるのはいけないと思いつつも、朝の忙しいときなので、なぜ妹のようにできないのか、と叱ってしまいます。

佐藤：自分の子育てを振り返ってみると一番上は何でも初めてで、期待もするし、その分がっかりもしました。この時期になぜこれができないのだろうと悩んでばかりいました。

下の子は、その点慣れがありますからあまり過剰な期待というものはありません。これは余裕のなせるわざといえますか、年齢がいけばいつかできるようになるものかと思えるようになりました。

野呂：うちの場合は、ついつい上に厳しくなってしまうですね。お姉ちゃんには我慢させてしまうことが多いと思います。

井上：上の子というのは、大人の目がいくつもあって、大変なんです。たぶん、お姉ちゃんには甘えたい気持ちがあるんじゃないかと思います。そのことを、お母さんは分かっているよ、あなたを愛しているよということを伝えていくことが大切ですね。

子どもは、一人一人違うからおもしろい、同じ人に育てられているから同じということはない、というふうに考えて子育てに向き合ったらいいかでしょうか？

反抗期の子育てについて

野呂：下の子が、今、「やだ」の連発で困ってしまいます。この時期は自我が芽生える大切な時期だと聞いているので、本人の自尊心を傷つけないよう、どうしていいのかわかなくて悩んでいます。

うちの子は、ほめられると、気をよくしてやるタイプなので、家庭では多くほめるようにしてい

井上 初代

栃木県幼児教育センター顧問。宇都宮大学附属幼稚園副園長を10年間務め、その後足利短期大学教授として教員の養成に携わる。現在、栃木県家庭教育振興促進委員会の副座長も務める。「子どものいい応援団」。





三歳の反抗は重要

ます。社会に出たらいつもそうしてもらえないわけではないので、周りの大人がどうサポートしていったらいいのか不安もありますが、保育園ではがんばってやっているようなので、家では仕方ないと思っています。

関：うちは1人っ子で、父親の帰りが遅く、いつも母と子ども2人です。2世帯住宅に住んでいるのですが、なるべく負担をかけないように、外出するときも連れて出かけるようにしていました。商店街の中の住宅なので、周りに同年代の子どももいません。そのせいか、子どもが人とかかわるのが下手なような気がします。

夏休み前から反抗期といいますが、言葉づかいが悪くなってきました。お友達にけがをさせたこともあります。困った行動の原因は、反抗期ということと、私の神経質なカリカリした子どもをみる目かなと思うんです。父親も不在で存在感がなく母親だけの子育てでいいのだろうかと悩んでいます。

井上：父親が子育てになかなか参加できないような状況の話がありましたが、父親の役割についてはどうお考えになりますか。

野呂：子どもとの触れ合いが少なくなると一挙に離れていってしまうので、かかわるときには密度を濃くするようにしていますね。あと、妻は生活のこまごましたことで子どもとかかわっているのですが、私は、大きな立場でかかわるようにしています。また、母親と父親のしつけに関する基準が違っていると困るので、夫婦でよく話し合うようにしています。

清水：夫婦そろって子どもを叱ってしまったことがあり、非常に後悔したことがあります。両親で

叱ってしまわないよう、一方が叱るときには一方はその後のフォローに回るよう話し合いで決めました。

また、私が長女を叱りすぎて家出のようなことをされたことがありましたが、実家に行くとは分かっていたので、電話で事情を説明し預かってくれるよう頼んだことがありました。周りの大人がみんなで子どもを育てているんだな、と実感しました。

井上：子どもが小さいときは父親というのは子どもの生活のこまごましたことにはからんでこないでいいと思います。叱るときにはお母さんと違う視点で叱ってほしい。

いわゆる反抗期ですが、くまのプーさんの話にこういう下りがあります。



「ひとつのときは、なにがかもはじめだった。
ふたつのときは、ほくはまるつきいしんまいった。
みつのときは、ほくはやっとほくになった。
よつつのときは、ほくは大きくないたかった。
いつつのときは、なにからなにまでおもしろかった。
いまはあつつでほくはありったけありこうであ。
だからいつまでも、あつつでいたいとおもいます。」
(A.A.ミルン「くまのプーさん」より)

つまり、3歳頃は何にでも自信がでてくるんです。お母さんの価値観に素直に乗れない。そこは次の時代への飛躍台なんです。そこを飛躍しないと成長にならない。決められたことを壊したいという子どもの気持ちをつぶさないで育ててほしいと思います。反抗してくれてありがたいくらいに

清水 典子

中学1年、小学5年、小学3年、5歳の女子4人のお子さんをもつ。次女の交通事故による3ヶ月の入院を経験し、家族の絆や御近所との関係が大切であり、ありがたいものだと、身をもって実感した経験がある。



佐藤 育子

高校2年女子、小学4年女子、4歳男児をもつ。子どもの年齢が離れているので、その分、付き合う親の年齢層も幅広く、数も3倍に増えたとおっしゃるお母さん。





親の対応で善悪を教える

構えて。

飛躍台はその後もありますね。その時期、時期の飛躍を押さえ込んでしまうと、飛躍が小さかった分、その後の反抗期の時にしんどいのです。

とにかく、70%はほめて育ててください。そうすれば、おこったとき、いつもほめるお母さんがそういうのだから、叱られてもしようがないと子どもも考えますよ。

この「ほくが悪かった」という気付きがなければ叱ったことにはなりません。

だめの基準としかり方

野呂：よその子にも叱れるかどうかが問題だと思います。昔はよく知らないおじさんに叱られたものですが、今はなかなかそうはいきません。いま、地域のお離子会に携わっていますが、あいさつが出来ない子が目立つので、そういった場面では、私も注意しています。

清水：特に、次女が交通事故にあっているので、命にかかわることや相手にけがをさせるようなことについては叱ります。

関：叱るときは、子どもがたいしたことないのかなと思ってしまうと困るので、途中で妥協はしません。でも、後で、叱りすぎてごめんねと言うことはあります。

佐藤：うちではうそをつくこと、人様に迷惑をかけることはだめとっています。学童保育にもかかっているのですが、保護者の連帯感が出来ていて、よその子どももみんなだみて叱ろうという意識があります。いろいろな家庭があるので、親も子ども多様な価値観に触れることができます。

関：自分が神経質なので、そういう環境で子ども

を育てるのはとても不安です。もっと大らかに子育てをしていきたいと思うのですが。

井上：今は核家族が増えているので、合理的に子育てをする傾向があります。叱られたときの子どもの逃げ場を作っていくことが課題でしょう。一般的に言いますとやはり親はいけなときにはしっかり叱ってほしい。大人になって反社会的な行動をとる人は、子どもの時に、叱られた経験も、ほめられた経験もあまりないぬるま湯のような家庭で育てている人が多いのです。叱る際には、子どもには長い説教は効果がありません。その場で要点について、具体的に何がいけないのか、どうすればよかったのかを伝えるようにしましょう。

ものの与え方

現代はものにあふれる時代となってきました。子どもがほしがるもの、他の大多数の子がもっているものをねだられたとき、どうしていますか。

井上：うちはこういう訳で買ってもらえない、という理由が子どもに分かっていたら我慢できる年齢ですが、すべて拒否されると、友達同士の会話の中で孤立したりします。このかねあいがむずかしい。

佐藤：長女には携帯をもたせましたが、ほとんど使わないようです。自分なりの価値観をもっているのだと思います。下の子は、新品の自転車があほしくて、祖父にねだっているようです。交渉ということが出来るようになったと捉え喜んでます。

井上：簡単に手に入るものは大切にしない。大きいものは年に一回位買ってやる等の約束を作るのも有効です。我慢させる間の待ち方も重要ですね。

野呂 通治

5歳女兒、3歳男児の父親。しつけはもっぱら奥様任せの状況とおっしゃる。地域のお離子会で子どもたちとの交流も増えている。



関 純子

4歳男児の母。元気のいいお子さんの反抗期もあり、子育ての在り方について考えることが多い。御自身だめな母親の見本かも、とおっしゃるお母さん。





待つ楽しみも子どもから奪わないでほしい。

怖いのは、マーケット等で「これ買って」「だめよ」というやりとりの後、子どもがかごに品物を入れてしまうこと。それで何となく買ってしまっている。これって、万引きが悪いことという意識をもたない子に育ってしまう。「お金」と「ものの価値観」の教育はこの時期から大切なしつけの内容ですね。

過保護と守るの境界は

アンケートの回答にも多くあったのが、過保護と放任の境目が分からないというものでした。手をかけすぎが過保護で、それをしないのが放任という通念は理解していても、その程度が親の迷うところかもしれません。

野呂：男の子はとにかく遊びが激しい。友達とのけんかも、殴り合いにしろ、口げんかにしろ、すぐに止めるばかりでなく、子ども同士が納得できる形で解決する経験をもたせたい。反対に女の子の場合には、例えば、携帯を持たせるとなった時、最近ニュースに出てくるような、事件に巻き込まれるのではないかと心配してしまいますね。いろいろな体験を通して学んでいってほしいと思う反面、大人が関与して導いてやる部分もあるのではないか。その境界がむずかしいと思います。

井上：過保護と放任は対比されますが、放任は過保護より危ういです。この時代の子どもには「甘やかし」は必要です。

「甘やかし」とは「かわいそう、つらいだろう」と手を貸すものではありません。子どもの気持ちを受け止め見守ってやることです。

反対に放任というのは、道具を、例えば刃物を子どもに持たせる時、安全な使い方のコツを教えるなどの配慮をしないことです。

反面、何もかも子どもに求めすぎるのが過干渉です。これはいけない。過干渉と過保護とは違いますね。

お母さんが元気に子育てするために

最後になりましたが、皆さんの感想をお聞かせください。

関：皆さんのお話を伺って、自分の子育てを見直す機会となりました。私の育ってきた環境を自分の子どもにも保証してやることを考えていきたい

と思います。

佐藤：私は生涯子どもにとって1人の親、現役の親であることを再確認させていただきました。何人子どもがいても、その子にとっての親は一人しかいないから、がんばろうと思います。

清水：母親として、1人で子育てのプレッシャーにつぶされそうなとき、父親には、がんばっている私をかわいがってほしいと思いますね。「おまえ、子育てがんばってるな。俺は見てるよ。」そういう一言をいってもらえるだけで子どもに対する態度が変われることがあるんです。

野呂：じゃあ、早速帰って妻にメールしよう。

今回座談会に出席してみて、皆さんが同じ悩みをもっていることがよく分かりました。自分の家庭なりのしつけの基準をしっかり持って、自分の子どもだけでなく地域で子育てしていきたいと改めて思いました。

井上：幼児期に何をしつけるか、最後に三点挙げておきましょう。

最初はことば、次は生活習慣、最後に人間らしさ。これらは一生の土台となります。71%が4歳までの、この時期に培われるといわれています。夕食の時などがいい機会だと思いますね。いろいろ話しながら家族との時をもつ、そういう雰囲気の中で会話を楽しむ。食事のおいしさを話題にすることなどで3点が身に付いていきます。

若いお父さんお母さん方に期待しています。



座談会は最初緊張のうちに始まりましたが、時がたつにつれ、自分の子育てを、御自身が話しながら再確認したり、よそのお宅の子育てに聞き入ったりする場面を経ながら進んでいきました。それぞれの保護者の方が、等身大の子育てを行いながら、迷い、そして子どもと共に成長していることが感じられました。4人の保護者の皆さんありがとうございました。

トピック TOPIC

アンケートの中で多く寄せられたのが、反抗期の子育てと、叱り方、受容と甘やかし、のびのびと放任の境界について分からないというものでした。このコーナーでは、これらのトピックについて、幼児教育センター専門員が解説します。



反抗期のしつけ

専門員 小堀 泉

いままで愛らしく素直にいうことを聞いていた子どもが、「いや」「自分でする」といい始め、その反面、出来なくて意地をやいたり、ごねたりする時期は、周りの大人は大変困ってしまいます。これはいわゆる「反抗期」（自我の芽生え）と呼ばれる発達過程です。

この、反抗期について何点か述べてみましょう。

反抗期は一人前の人間になるために必要な発達段階

- 2～4歳頃はものを認知する能力や運動する能力のめざましい発達に伴って、行動の種類や範囲を広げてゆく時期です。
- 何でもやってみたい、知りたい、自分でやりたいという子どもの探索欲や自律の欲求は、まわりの大人から規制を受けることになり、規制を受けた子どもは欲求を妨げられることとなりますから、反抗的な言動をとることになります。
- 子どもは反抗することで他者の意志とぶつかり、結果として自分の意志を鮮明に意識します。これが自我の芽生えです。
- 子どもに反抗の理由を聞いても子どもは答えられません。なぜなら子どもはまだ自分の気持ちをうまく表現する力を十分もっていないからです。
- 子どもの反抗は5歳位になるとかなり落ち着いてきます。

「反抗期」の子への接し方

- まず、子どものペースに巻き込まれないよう

に落ち着いて一呼吸する余裕をもって下さい。
○ 親は子どもの行動をほめたり、叱ったりすることによって、子どもに世の中の「善悪」の基準を伝えていくこととなります。

気をつけましょう

- 「うるさいから」「めんどうだから」「かわいそうだから」と大人の都合で安易な妥協をすることはよくありません。
- 反対に「大人のいうことは絶対にきかせる！」など、極端に支配的になったりせず、じっくりと根気よく向かい合ってください。

うまくいかないとき

- 感情的になってしまいそうなときは、1分でも2分でもその場から遠ざかって、頭に昇った血を下げてみてください。子どもと同じレベルにならず、自我の芽生えを助けるようなつもりになりましょう。
- 1人で抱え込まないよう、普段から話せる相手を作っておくことも大切です。
- カウンセラーや児童相談所などの専門家に相談することも考えてみましょう。



のびのびと放任

専門員 廣瀬 道子

いつの世でも、親と子の触れ合いの大切さは変わりません。多忙な日々の中でも、お子さんと接する時間は、大切にしていきたいと思います。お母さんの胸に抱きしめる、膝の上のにせ、絵本

を読んでやる等のスキンシップは大切です。その中で、心のスキンシップを図っていくことは子どもをのびのび育てる上でとても大切なことです。

親のかかわり

子どもが遊んでいる時の親のかかわりを例にしてみましょう。

子どもたちが、砂をシャベルで高く積み上げるのに夢中になっています。でも、砂がさらさらしているので思うように山を高くできないでいます。幼稚園や保育所ではこのようなとき、「水をかけてごらん」などのアドバイスをを行い、砂が水を含むと固まりやすくなるという特性に気づかせるようにしています。お母さん方も、子どもの遊びが豊かになるように、指図ではなく、提案をするように配慮をしていただくことは大変よいことです。

さて、砂遊びに熱中する子どもたちは、服が汚れるのもかまわずにいます。

このようなとき、お母さん方はさりげなく、ズボンの裾をまくり上げるなどして衣服が汚れるのを防ぐことを教えていくこともあるでしょう。

これは、のびのびと子どもが遊ぶことを保証してやる例です。

逆に、子どもが遊んでいるからと、ただ、遠くからみているだけで、遊びに満足したお子さんがお母さんの元に帰ってきた時に「まあ、こんなに汚して、洗濯が大変でしょう。」と叱るのは、放任であるといえるでしょう。

のびのびと放任

のびのびとは子どもの「～したい」と思う心を受け入れ、足りないところをさりげなく補いながら見守ることです。

一方、放任とは子どもの思うままにしておき、お母さん中心に物事を捉え、一貫性なく叱るような行動のことをいいます。よく、「手は離すが、目は離すな」といわれますが、まさにそのことです。

さらに欲を言えば目を離さない上に、子どもが今一生懸命になっていることを理解し、充実感を味わえるように配慮をすることです。

大切なこと

幼児期は、善悪や協調性などを体験を通して身につける大切な時期です。この時期、一番身近な家族の対応によって幼児は物事の善し悪しを身につけていきます。

周りの大人の接し方が、子どもの集中する力や、自主性、協調性や我慢する心などを育てることとなります。

忙しい日常の中でも、ちょっとした配慮で放任からのびのびへの子育てへとかえることができますので、前向きに子育てしていただきたいと思えます。

こどものつぶやき

★ ナメクジを見て

「あっ、かたつむり、
おうちから出てきちゃった」

★ 動物園で

「せんせい、子どもなんびき？
あっはいいくつ？」

★ ままごとの始まり、積み木を耳にあてて
「ねえ、お茶しない？」

★ 十五夜のお話を聞いた後、月見団子を丸めながら

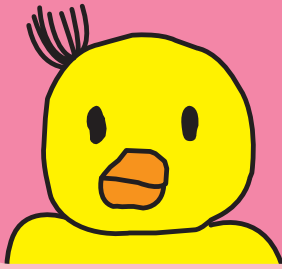
「夜お月様出るといいね。」
「ウサギがもちついているんだよね。」
「えっ、だんご丸めているんじゃないんだ。」

★ 砂場で穴を掘りながら

「ちぎゅうにあなを
あけちゃった。」



編集後記



栃木県幼児教育センター
〒320-0002
宇都宮市瓦谷町1070
幼児教育センター
Tel.028-665-7215
Fax.028-665-7216

「おうち」創刊号は楽しく読んでいただけたでしょうか。
事前にとった「しつけ」についてのアンケートを集計する中で、保護者の方々が日々子育てとしっかり向き合い、奮闘されている姿が目に見えられました。

また、皆さん方だけが悩みを抱えているのではなく、同じ悩みを多くの方が共有しているということもわかってきました。

今後は誌上に皆さんの意見を交流する読者のページを開設し、意見の交換等を行っていきたいと思っています。

また、ホームページ

<http://www.edu-c.pref.tochigi.jp/youji/index.htm> もご覧ください。

なお、この広報誌にかかわる番組が下記のとおりとちぎテレビで放映されます。広報誌とともに、ご覧ください。

ここが知りたい「栃木の教育」家庭教育広報誌「おうち」について

平成14年11月10日(日) 18:05~18:30

次回のテーマ

次回（平成15年2月発行予定）も引きつづき「しつけ」をテーマにします。

「おうち」は毎年2回、テーマを決めて、そのことに関するアンケート調査をもとに編集していきます。「こんなテーマを取り上げてほしい」といった御要望もお受けしています。

例) ゲーム、睡眠、食、外遊び、友達、テレビ

キ リ ト リ

「おうち」についての
自由意見



※ご意見のある方は栃木県幼児教育センターあて送付ください。

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています